



二〇二三年入城五〇〇年

元就がつなぐ今と昔

入城500年の始まりを
清神社で迎えますませんか？



会場 清神社

吉田神楽団

吉田神楽団は、吉田町にある、昭和47年結成の歴史の新しい神楽団です。現在団員は24名、和気藹々とした中にも、常に神楽の本質を求め、日々練習に励む、活気あふれる神楽団です。また、郡山子ども神楽団の育成にも力を入れ、郷土芸能・神楽の伝承と、更なる発展に力を注いでいます。



2022.12.31 | sat — 2023.1.1 | sun

23:20 開始

1:30 終了予定

入城500年
スタートイベント

神楽奉納 / 吉田神楽団
儀式舞「神迎え」

清神社歳旦祭

毛利元就入場

元就より市長に
三矢を負託

市長あいさつ

神楽奉納 / 吉田神楽団
「厳島合戦」 / 餅まき

主催：安芸高田市・安芸高田市教育委員会 / 協力：清神社
お問合せ：生涯学習課 文化スポーツ係 電話・お太助フォン (0826) 42-0054



厳島合戦

時は天文、中国山陽の地を領していた大内義隆は連歌や和歌などに興じていました。

武闘派家臣の陶隆房は、主君のそのような振る舞いに危機感を抱き、ついには謀反を起こします。義隆を自害に追い込んだ隆房は、名を陶晴賢と改め、謀反を正当化し大内家中の実権を手に入れます。

これを受けて、大内氏の庇護下にある毛利元就は毛利隆元と共に、謀反を正当化する晴賢に異議を唱え逆賊として討つことを決意。

強大な力を誇る晴賢を厳島の宮尾城へと誘い込んだ元就の軍勢は、奇襲により晴賢を追い込みます。

元就の知略によつて窮地に立たされた晴賢は、仲間の三浦房清が自ら盾となることで一時離脱することができましたが、周囲を海に囲まれた厳島から逃げるための船はなく、晴賢は、自ら滅ぼした元主君義隆と大内家に対する切なる思いと共に切腹して果てます。

吉田郡山城へと凱旋した元就は、毛利家臣団の団結に一層心を配り、その後も勢力を伸ばし、ついには中国地方を平定していくという物語です。



清神社 sugajinja



郡山麓にあり、郡山築城以前から祇園社として存在していました。正中2年(1325)以後の棟札が全て現存し、社宝も多くあります。郡山の鎮守社として戦国時代には毛利氏に篤く信仰されました。現在の社殿は元禄7年(1694)建立のもので、境内にそびえる老杉は樹齢700年以上ともいわれています。数百年を経た老杉が高くそびえる中に、入母屋造、平入

千鳥破風、軒唐破風付の大型の本殿があります。祭神は、本殿に素盞鳴尊(すさのおのみこと)、相殿に足摩乳(あしなづち)、手摩乳(てなづち)、稲田姫をはじめ五男三女神をまつっています。

また、吉田の地を素盞鳴尊の八岐大蛇(やまたのおろち)退治、伝説の地とする説があります。

日本書紀に「是の時に素盞鳴尊安芸国の可愛の川の上を下到ります彼処に神あり」とあり、可愛の2字を”エ”と読ませています。

吉田を流れる川を可愛川(えのかわ)、下流を江の川ということから、”安芸国の可愛の川の上”とあるのは、この地方であるといわれています。

大通院谷
砂防公園
駐車場
駐車可能台数
13台



安芸高田市歴史
民俗博物館駐車場
駐車可能台数 18台



安芸高田市役所
駐車場
駐車可能台数 500台



当日駐車場の のご案内

詳細はQRコードより確認できます

安芸高田多文化共生
センターきらり駐車場
駐車可能台数 40台

